

# 四半期報告書

(第72期第1四半期)

自 2023年4月1日

至 2023年6月30日

**株式会社オーハシテクニカ**

東京都港区虎ノ門四丁目3番13号

# 目 次

頁

## 【表紙】

第一部 【企業情報】	1
第1 【企業の概況】	1
1 【主要な経営指標等の推移】	1
2 【事業の内容】	1
第2 【事業の状況】	2
1 【事業等のリスク】	2
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	2
3 【経営上の重要な契約等】	4
第3 【提出会社の状況】	5
1 【株式等の状況】	5
(1) 【株式の総数等】	5
(2) 【新株予約権等の状況】	5
(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】	5
(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】	5
(5) 【大株主の状況】	5
(6) 【議決権の状況】	6
2 【役員の状況】	6
第4 【経理の状況】	7
1 【四半期連結財務諸表】	8
(1) 【四半期連結貸借対照表】	8
(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】	10
【四半期連結損益計算書】	10
【四半期連結包括利益計算書】	11
2 【その他】	15
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	16

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 2023年8月9日

**【四半期会計期間】** 第72期第1四半期(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

**【会社名】** 株式会社オーハシテクニカ

**【英訳名】** OHASHI TECHNICA INC.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 柴崎 衛

**【本店の所在の場所】** 東京都港区虎ノ門四丁目3番13号

**【電話番号】** 03(5404)4411 (代表)

**【事務連絡者氏名】** 執行役員経理部長 正木 聖二

**【最寄りの連絡場所】** 東京都港区虎ノ門四丁目3番13号

**【電話番号】** 03(5404)4418

**【事務連絡者氏名】** 執行役員経理部長 正木 聖二

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第71期 第1四半期 連結累計期間	第72期 第1四半期 連結累計期間	第71期
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年6月30日	自 2023年4月1日 至 2023年6月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高 (千円)	8,276,907	9,278,562	34,974,647
経常利益 (千円)	635,793	397,264	2,396,472
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 又は親会社株主に帰属する 四半期純損失(△) (千円)	452,169	△23,048	1,283,104
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	1,648,546	481,461	3,331,053
純資産額 (千円)	34,347,071	35,655,377	35,565,039
総資産額 (千円)	44,360,923	44,115,769	43,649,803
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 又は1株当たり四半期純損失 金額(△) (円)	33.17	△1.71	95.00
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	76.5	79.8	80.5

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 第71期第1四半期連結累計期間及び第71期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 第72期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び当社の関係会社)が判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間の世界経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が弱まり、経済活動の正常化が進んだ一方、ロシアのウクライナ侵攻による資源価格・エネルギー価格の高騰と消費者物価の上昇等により、引き続き先行き不透明な情勢が続きました。

当社グループの事業分野であります自動車業界におきましては、半導体不足等の緩和に伴い、自動車メーカーの生産調整は徐々に解消しつつあり、日系自動車メーカーのグローバル生産台数は前年を上回る実績となりました。

このような環境下、当社グループは「中期経営計画～Mission 2025～」の2年目として、グループの4つの機能である開発機能、製造機能、調達機能、グローバル機能の一層の強化による「経済的価値の追求」と、環境・社会・ガバナンスの重要課題における「社会的価値の創造」に資する具体的施策を掲げ、活動を推進しております。

こうした中、当第1四半期連結累計期間の連結売上高は、一部商用車メーカーの減産継続の影響があったものの、主要得意先自動車メーカーの生産回復、及び新規受注品の売上寄与や円安に伴う為替換算のプラス影響もあり、9,278百万円(前年同期比12.1%増)となりました。一方、連結営業利益については、仕入価格・原材料価格の高騰と中国における売上減少の影響が大きく、353百万円(同36.5%減)となりました。また、経常利益は397百万円(同37.5%減)、親会社株主に帰属する四半期純損失は、海外子会社における資金流出事案による特別損失を計上したことから、23百万円(前年同期は、親会社株主に帰属する四半期純利益452百万円)となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。(セグメント売上高は、外部顧客に対するものであり、セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。)

#### 〔日本〕

一部商用車メーカーの減産継続の影響があったものの、主要得意先自動車メーカーの生産回復、及び新規受注品の売上寄与により、売上高は4,509百万円(前年同期比10.4%増)となりました。セグメント利益は、売上の増加はありましたが、仕入価格・原材料価格の高騰と人材関連費用の増加等により、76百万円(同49.0%減)となりました。

#### 〔米州〕

主要得意先自動車メーカーの生産回復と新規受注品の売上寄与や円安に伴う為替換算のプラス影響により、売上高は2,786百万円(前年同期比55.5%増)となりました。セグメント利益は、売上の増加はありましたが、仕入価格・原材料価格の高騰と人材関連費用の増加等により、60百万円(同27.9%減)となりました。

#### 〔中国〕

自動車販売台数に占める地場メーカーによるEV車・PHV車の比率が急速に高まり、エンジン車、HV車が主力の日系自動車メーカーの生産、販売が低迷し、売上高は835百万円(前年同期比39.5%減)となりました。セグメント利益は、売上減少の影響が大きく、0百万円(同99.8%減)となりました。

#### 〔アセアン〕

新規受注品の売上寄与や円安に伴う為替換算のプラス影響により、売上高は782百万円(前年同期比8.5%増)となりました。セグメント利益は、製造原価の上昇により、96百万円(同2.7%減)となりました。

#### 〔欧州〕

主要得意先自動車メーカーの生産回復と新規受注品の売上寄与や円安に伴う為替換算のプラス影響により、売上高は364百万円(前年同期比22.3%増)となりました。セグメント利益は、仕入原価の上昇により1百万円(同97.8%減)となりました。

#### 〔台湾〕

台湾大橋精密股份有限公司は、グループ間取引のみのため、外部顧客への売上高はありません。

グループ会社向けの輸出は増加しましたが、セグメント利益は、輸出条件の見直し等により、8百万円（前年同期比32.7%減）となりました。

当第1四半期連結会計期間末における資産の残高は、前連結会計年度末比465百万円増加し、44,115百万円となりました。これは主として、商品及び製品の減少がありましたが、受取手形、売掛金及び契約資産、有形固定資産、投資有価証券が増加したことによるものであります。

負債の残高は、前連結会計年度末比375百万円増加し、8,460百万円となりました。これは主として、電子記録債務が増加したことによるものであります。

純資産の残高は、前連結会計年度末比90百万円増加し、35,655百万円となりました。これは主として、配当金の支払や親会社株主に帰属する四半期純損失による減少がありましたが、為替換算調整勘定や、その他有価証券評価差額金が増加したことによるものであります。

(2) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当第1四半期連結累計期間において、前連結会計年度の有価証券報告書の「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の、重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について、重要な変更はありません。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について、重要な変更はありません。

(5) 財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当第1四半期連結累計期間において、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針について、重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、22百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(7) 生産、受注及び販売の実績

当第1四半期連結累計期間において、米州における販売及び生産の実績と、欧州における仕入の実績が著しく増加しております。

米州におきましては、主要得意先自動車メーカーの生産回復と新規受注品の増加、また円安に伴う為替換算のプラス影響により、販売実績は2,787百万円（前年同期比55.5%増）となり、生産実績も517百万円（前年同期比93.8%増）となりました。

欧州におきましては、主要得意先の新規品立ち上げに備えた、台湾のグループ会社からの仕入増加により、仕入実績は246百万円（前年同期比110.9%増）となりました。

(8) 主要な設備

① 当第1四半期連結累計期間において、新たに確定した重要な設備の新設計画は次のとおりであります。

会社名 事業所名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	投資予定額 (千円)	完了予定年月
オーハシ技研工業株式会社 鈴鹿工場	三重県 鈴鹿市	日本	生産設備	176,000	2024年9月

② 前連結会計年度末において計画中であった主要な設備の新設について、当第1四半期連結累計期間に著しい変更があったものは、次のとおりであります。

会社名 事業所名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	投資予定額 (千円)	完了予定年月
OHASHI SATO (THAILAND) CO., LTD.	タイ国 プラチンブリ	アセアン	生産設備	220,000	2023年11月 (注)

(注) 完了予定年月を2023年7月から2023年11月に変更しております。

(9) 資本の財源及び資金の流動性に係る情報

当社グループの主要な資金需要は、販売のための商品仕入、製品製造のための材料費、労務費、経費、販売費及び一般管理費等の営業費用並びに当社グループの設備、改修等に係る投資であります。

当社グループの持続的な成長・企業価値の向上を図るためには、グローバル事業体制の拡充、強みのある製造基盤の構築を実現するための資本投下、製造設備の強化、M&Aを含めた投資等の検討が不可欠と考えております。

中長期的な経営戦略に沿った開発・製造機能の強化、特にグループ製造拠点の生産能力拡大のための設備投資と主要調達先との戦略的資本提携に資金の投入を行う方針です。また、安定的な還元と積極的な資本政策についても引き続き取り組んでまいります。

これらの資金需要につきましては、自己資金を中心に対応していくこととしております。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	64,000,000
計	64,000,000

###### ② 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年8月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	13,678,960	13,678,960	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数100株
計	13,678,960	13,678,960	—	—

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### ① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### ② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年4月1日～ 2023年6月30日	—	13,678,960	—	1,825,671	—	1,611,444

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。



## (6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2023年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

### ① 【発行済株式】

2023年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 200,000	—	単元株式数100株
	(相互保有株式) 普通株式 66,200	—	単元株式数100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 13,406,500	134,065	単元株式数100株 (注)1
単元未満株式	普通株式 6,260	—	(注)2 (注)3
発行済株式総数	13,678,960	—	—
総株主の議決権	—	134,065	—

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が200株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数2個が含まれております。

2. 1単元(100株)未満の株式であります。

3. 以下のとおり、自己株式等が含まれております。

自己株式	当社	81株
相互保有株式	(株)テーケー	19株
相互保有株式	(株)ナカヒョウ	93株
計		193株

### ② 【自己株式等】

2023年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社 オーハシテクニカ	東京都港区虎ノ門4丁目 3番13号	200,000	—	200,000	1.46
(相互保有株式) 株式会社テーケー	長野県上伊那郡 宮田村93番地1	12,000	4,700	16,700	0.12
(相互保有株式) 株式会社ナカヒョウ	岐阜県各務原市鷺沼羽場 町7丁目363番地	41,200	8,300	49,500	0.36
計	—	253,200	13,000	266,200	1.94

(注) 他人名義で所有している株式数は、すべて持株会名義で所有しているものであり、持株会の名称及び住所は次のとおりであります。

名称	住所
オーハシテクニカ取引先持株会	東京都港区虎ノ門4丁目3番13号

## 2 【役員状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(2023年4月1日から2023年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	19,820,308	19,797,488
受取手形、売掛金及び契約資産	7,313,682	7,900,578
商品及び製品	5,548,121	5,212,498
仕掛品	704,384	680,570
原材料及び貯蔵品	1,080,448	1,070,154
その他	414,062	410,688
貸倒引当金	△9,891	△12,925
流動資産合計	34,871,115	35,059,052
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	5,378,560	5,524,648
減価償却累計額	△2,990,137	△3,088,034
建物及び構築物（純額）	2,388,423	2,436,613
機械装置及び運搬具	9,664,542	9,788,873
減価償却累計額	△8,117,400	△8,239,252
機械装置及び運搬具（純額）	1,547,142	1,549,621
工具、器具及び備品	3,886,499	3,967,584
減価償却累計額	△3,518,449	△3,565,532
工具、器具及び備品（純額）	368,050	402,051
土地	1,359,355	1,372,015
建設仮勘定	417,696	459,636
有形固定資産合計	6,080,667	6,219,939
無形固定資産		
ソフトウェア	71,752	69,565
その他	54,194	54,850
無形固定資産合計	125,947	124,416
投資その他の資産		
投資有価証券	1,884,983	2,067,409
繰延税金資産	192,121	149,946
その他	496,067	496,105
貸倒引当金	△1,100	△1,100
投資その他の資産合計	2,572,072	2,712,361
固定資産合計	8,778,687	9,056,716
資産合計	43,649,803	44,115,769

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,079,241	3,137,527
電子記録債務	2,776,289	2,936,881
未払法人税等	178,147	130,500
賞与引当金	152,424	123,154
役員賞与引当金	57,400	17,300
その他	941,886	1,162,956
流動負債合計	7,185,389	7,508,320
固定負債		
繰延税金負債	37,761	49,181
退職給付に係る負債	669,546	658,499
その他	192,068	244,390
固定負債合計	899,375	952,072
負債合計	8,084,764	8,460,392
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,825,671	1,825,671
資本剰余金	1,611,240	999,611
利益剰余金	28,204,211	28,401,903
自己株式	△287,187	△287,422
株主資本合計	31,353,935	30,939,763
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	397,785	528,850
為替換算調整勘定	3,345,879	3,704,501
退職給付に係る調整累計額	42,398	40,452
その他の包括利益累計額合計	3,786,064	4,273,804
非支配株主持分	425,039	441,809
純資産合計	35,565,039	35,655,377
負債純資産合計	43,649,803	44,115,769

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年6月30日)
売上高	8,276,907	9,278,562
売上原価	6,289,393	7,409,851
売上総利益	1,987,514	1,868,710
販売費及び一般管理費	1,430,278	1,515,012
営業利益	557,235	353,697
営業外収益		
受取利息	8,148	12,962
受取配当金	17,606	21,786
持分法による投資利益	12,125	3,332
為替差益	4,094	—
作業くず売却益	18,073	14,246
補助金収入	17,679	5,918
その他	4,802	6,169
営業外収益合計	82,530	64,416
営業外費用		
支払利息	2,433	1,757
為替差損	—	18,965
自己株式取得費用	967	—
その他	571	126
営業外費用合計	3,972	20,849
経常利益	635,793	397,264
特別利益		
固定資産売却益	311	793
特別利益合計	311	793
特別損失		
固定資産除却損	672	296
在外子会社資金流出事案に伴う損失	—	※ 281,451
特別損失合計	672	281,748
税金等調整前四半期純利益	635,433	116,309
法人税、住民税及び事業税	171,734	127,635
法人税等調整額	4,739	6,936
法人税等合計	176,474	134,571
四半期純利益又は四半期純損失(△)	458,959	△18,261
非支配株主に帰属する四半期純利益	6,789	4,786
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	452,169	△23,048

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	458,959	△18,261
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△17,464	132,607
為替換算調整勘定	1,207,308	370,604
退職給付に係る調整額	△1,018	△1,946
持分法適用会社に対する持分相当額	761	△1,542
その他の包括利益合計	1,189,587	499,722
四半期包括利益	1,648,546	481,461
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,611,539	464,691
非支配株主に係る四半期包括利益	37,007	16,769

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

連結会社以外の会社の金融機関からの借入に対して、次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
㈱テーケー	154,922千円	144,446千円

(四半期連結損益計算書関係)

※ 在外子会社資金流出事案に伴う損失

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

当社の連結子会社であるOHASHI TECHNICA MEXICO, S. A. DE C. V. における資金流出事案に伴う損失であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
減価償却費	199,856千円	198,215千円

(株主資本等関係)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月24日 定時株主総会	普通株式	427,223	31	2022年3月31日	2022年6月27日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、2021年11月10日開催の取締役会決議に基づき、自己株式252,200株の取得を行っております。この結果、当第1四半期連結累計期間において、自己株式が322,817千円増加し、当第1四半期連結会計期間末において自己株式が890,750千円となっております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月23日 定時株主総会	普通株式	390,887	29	2023年3月31日	2023年6月26日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント							調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	日本	米州	中国	アセアン	欧州	台湾	計		
売上高									
外部顧客への 売上高	4,085,345	1,791,983	1,380,532	720,782	298,263	—	8,276,907	—	8,276,907
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	501,016	815	27,326	43,182	—	200,003	772,344	△772,344	—
計	4,586,362	1,792,798	1,407,858	763,965	298,263	200,003	9,049,251	△772,344	8,276,907
セグメント利益	150,480	84,000	180,672	99,402	72,272	12,378	599,205	△41,970	557,235

(注) 1. セグメント利益の調整額△41,970千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント							調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	日本	米州	中国	アセアン	欧州	台湾	計		
売上高									
外部顧客への 売上高	4,509,644	2,786,520	835,686	782,050	364,661	—	9,278,562	—	9,278,562
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	502,897	622	30,302	15,173	—	291,557	840,553	△840,553	—
計	5,012,541	2,787,143	865,988	797,223	364,661	291,557	10,119,116	△840,553	9,278,562
セグメント利益	76,767	60,593	378	96,751	1,588	8,326	244,405	109,292	353,697

(注) 1. セグメント利益の調整額109,292千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。



(収益認識関係)

当社グループは、国内外において自社の生産拠点で部品製造を行うファクトリー機能と、調達先と協働して部品製造を行うファブレス機能及び開発・販売機能を併せ持つ部品サプライヤーです。当社グループの事業は、主要な事業である自動車関連部品事業及びその他関連部品事業で構成されておりますが、両事業における収益及びキャッシュ・フローの性質、計上時期等に差異はありません。また、報告セグメントの外部顧客への売上高のうち、その他関連部品事業が占める売上高は僅少であり、収益及びキャッシュ・フロー等の業績に与える影響は軽微であります。そのため、顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額(△)	33円17銭	△1円71銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 又は親会社株主に帰属する四半期純損失 金額(△) (千円)	452,169	△23,048
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額又は親会社株主に帰属 する四半期純損失金額(△) (千円)	452,169	△23,048
普通株式の期中平均株式数 (株)	13,631,191	13,463,232

- (注) 1. 前第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

(特定子会社の設立)

当社は2023年7月28日開催の取締役会において、中国広東省広州市に新たな連結子会社を設立することを決議しました。なお、当該子会社の資本金の額が当社の資本金の額の100分の10以上に相当するため、出資が完了しますと当社の特定子会社に該当します。

(1) 子会社設立の目的

中国における自動車部品の販売事業は、現在上海市に本公司を置く、当社の連結子会社である大橋精密件(上海)有限公司が担っておりますが、得意先は広州及び武漢を中心としております。

当社は既に中国では連結製造子会社2社を広州市に有しており、今後、当社グループとして広州地区を中心に製販一体による更なる事業拡大と経営の効率化を図ることを目的に、広州市に本公司を置く新たな連結販売子会社を設立することとしました。

(2) 設立する子会社の概要

①名称(予定)	大橋精密件(広州)有限公司(仮称)
②所在地	中国広東省広州市 広州経済技術開発区 永和経済区永盛路7号
③代表者の役職・氏名	董事長 総経理 寺井 誠
④事業内容	自動車関連部品の仕入・販売、輸出入業務
⑤資本金	6,000千円ドル(約840百万円相当額)
⑥出資比率	当社100%
⑦設立年月日	2023年9月上旬(予定)

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年8月9日

株式会社オーハシテクニカ  
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 板谷 秀穂

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 根津 美香

## 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社オーハシテクニカの2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社オーハシテクニカ及び連結子会社の2023年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

## 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施

される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は、当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。